

(様式第1号)

平成27年度第2回 芦屋市立図書館協議会 会議録

日 時	平成28年2月16日(火) 14時~15時25分
場 所	芦屋市立図書館本館2階集会室
出席者	委員長 笹倉 剛 委員 枝元 益祐 委員 北里佐和子 委員 熊本 潤子 委員 布谷 忠司 委員 松本 淳子 委員 松本 素子  事務局 中村社会教育部長, 丸尾館長, 越智管理係主席係長, 末広奉仕係主席係長, 木田整理係長, 森位
欠席者	水谷 孝子
会議の公開	■ 公開
傍聴者数	1人

1 会議次第

- ① 平成28年度予算(案)について
- ② 打出分室の運営について
- ③ その他

2 提出資料

平成28年度予算(案)資料

3 審議経過

(協議会開会)

(笹倉委員長) ただ今から、第2回図書館協議会を開会します。最初に、本日の委員の出席状況について報告をお願いします。

(丸尾館長) 委員定数8名中7名の委員が出席されておられます。芦屋市図書館設置条例施行規則第33条の2の規定で、過半数以上の出席で会議は成立しております。

(笹倉委員長) 次に、「芦屋市情報公開条例第19条」に基づき、この会議は原則公開としますが、特にご意見がなければ公開とさせていただくことにご異議ございませんか。異議がないようですので、この会議は公開とします。続きまして、芦屋市情報公開条例第7条に公文書の公開義務の規定で、本日の委員会の内容は原則公開と考えております。なお、公開内容としましては、ご発言いただいた委員のお名前も含め芦屋市ホームページで公開いたします。

それから、本日は、特に協議会の傍聴をされる方はおられますか。

(丸尾館長) 1名の方が傍聴の希望をされています。

(笹倉委員長) では、平成28年度予算(案)について議題といたします。事務局から説明をお願いします。

(丸尾館長) (事務局より、平成28年度の予算案について報告)

平成27年度の予算案報告の説明は以上です。

(笹倉委員長) ありがとうございます。ただ今の説明で何か質問やご意見はございますか。

ただいまの説明について質疑がないようですので、次の議題にいかせていただきます。

2番目の打出分室の運営について、事務局から説明をお願いします。

(丸尾館長) それでは、打出分室の運営について説明をさせていただきます。

平成28年度以降の打出分室の運営に関わる変更点が2点ございます。

1点目は運営形態の変更について、2点目は開室日の変更についてです。

1点目の運営形態の変更については、芦屋市立図書館は、本館以外に大原分室・打出分室という図書分室があります。現在、打出分室につきましては、芦屋図書館ボランティアという有償ボランティアによる運営を行っていますが、来年度より民間委託による運営に変更する予定です。打出分室が有償ボランティアによって運営されることになった経緯につきましてご説明いたします。今から14年前芦屋市の財政は、震災の影響による税収減などから危機的状況となりました。そのため、平成14年8月、行政改革実施計画によって、打出分室休室が市の方針として示されました。翌月21日には、分室周辺地域お住まいの方々へ説明会が打出教育文化センターで開催され、その中で打出分室の存続を要望される市民の方々から、ボランティアによる分室運営の提案があり、翌年、平成15年3月に市民ボランティアによる運営という手法で打出分室を存続することが決定しました。その後、会員募集や業務研修、契約手続きなどの準備を経て、平成16年10月より芦屋図書館ボランティアの会が発足し、ボランティア会員と図書館職員が協働しながら打出分室を運営することになり現在に至っ

ています。ボランティア運営開始から11年を経て図書館の業務量の増加による職員配置が困難になってきたこと、調査相談業務の強化が課題となっていること、今後の中長期的図書館運営の見直しなどの課題がでてきました。この数年、図書館は利用者から施設面やサービス面についての要望をいただく機会も大変増えていきます。地域の情報拠点としてレファレンスと情報提供サービスを充実させていかななくてはならないこと、それに合わせた蔵書構築、コンピューターシステムの構築を行っていかなくてはならないことなど、これからの中長期的な運営について考えていく中で、打出分室の位置付について見直すことになり、民間委託による運営という判断に至りました。打出分室の運営形態が変更した後も、引き続きボランティア会員の方々には図書館に力を貸していただき運営に関わっていただくことはできないか、今後の活動内容について協議検討を行っていく予定です。

2点目の開室日の変更については、平成28年4月1日より、利便性向上のため打出分室の開室日を拡充いたします。従来の日曜日・月曜日・火曜日の休室日を、日曜日・火曜日の休室日に変更し、祝日以外の月曜日を開室する予定です。打出分室は図書館関連施設の中でも最も開室日の少ない施設でしたが、来年度以降は今年度よりも42日開室日が増える予定です。今後も利用しやすい図書室運営に努めていきたいと考えています。打出分室の運営についての説明は以上です。

(笹倉委員長) ありがとうございます。ただ今の打出分室の運営等の報告について、何かご質問がありましたらよろしくお願ひします。

(布谷委員) 経緯はわかりましたが、大原分室の運営形態と準ずると思ってよいのでしょうか。

(丸尾館長) そのような形になります。本館は直営で運営していますので、分室に寄せられたご意見等は本館に必ず上がってきますので、それを反映させるように、本館がコントロールセンターという位置付で運営を行っていくことになります。

(枝元委員) 打出分室の民間委託の件ですが、民間委託そのものを否定しているわけではないのですが、うまくいっているケースとそうでない自治体のケースとが散見されるのが最近の現状だと思います。そこで、少し懸念するのですが、蔵書構成などの相互利用、例えば本館との利用や他の地域との利用をきちっと意識されておられるような委託先を確保できるのか、図書館サイドの要望として市へ上げていく必要があると思っています。

(丸尾館長) 業務委託という手法については、図書館や市がどう主導してそれを進めていくかということにかかってくると思っますので、民間委託にしたがゆえにサービス低下を招く事態にならないように図書館としても努め

ていきたいと思っています。相互協力につきましては、図書館本館が相互協力の依頼をかけたものを分室に送るという形になります。分室で受けた相互協力を民間委託の方が依頼することにはなりませんので、その面については大丈夫かと思っています。

(布谷委員) 開館日に関しては、大原分室と同じイメージですが、運営に関しては、図書館の運営をよく知っておられる業者のイメージを考えておられるのでしょうか。利用者にとって大原分室の運営と全然違うというイメージになってしまうのが怖い。だから、打出分室の経緯をよくご存じない業者がこられて、仕事をマニュアルでされると、常連の利用者の方も混乱されて、「いつもと違うし図書室に来たらダメなのかな。」と思われそうですので、そこあたりをご配慮いただいたらと思います。

あと、打出分室と打出教育文化センターとが同じ建物内にありますが、打出分室側が完全に民間委託になりますが、打出文化センターの事務室機能はどうなりますか。

(丸尾館長) 建物の1階部分の図書館スペースが打出分室になり、民間委託します。打出教育文化センターの事務室の運営には変更ありません。

(布谷委員) 奥の事務所は業者が使われるのですか。

(丸尾館長) 業者が使用するのは、あくまでカウンターのエリアと内部業務をする整理室の部分だけです。整理室では、利用者へ電話連絡などをするために使用します。

(布谷委員) 使用される場所によっては、図書館法に係る内容も出てきますので、本職しか入れないよということになれば問題があると思いましたので。

(笹倉委員長) ありがとうございます。何か関連して何かありますでしょうか。大きな問題でもありますので。

今のご意見で、利用者に対して状況が変わっていくのではないかという危惧について、図書館の方で考えられていることはありますか。

(丸尾館長) 地域の図書館ですから、親しみやすい図書室運営を目指していかないといけないと思っておりますが、もしも、新規の業者の方が入ることになれば、打出分室の経緯や背景等については、図書館本館からもしっかり話をさせていただき、運営を行っていきたいと思っています。年配の方や小さい子供さんをお持ちのお母さんなどが多く利用されていますので、親しみやすい図書室というのを目指していきたいと思っています。

(笹倉委員長) 打出分室は、古風な芦屋らしいすごい建物です。委員が危惧されているのは、地域の住民にとってサービスができる、住民のための図書館になるかどうかという心配な点だと思うのですが。他の委員さんもそういう意味で何かこの際聞いておくことがありましたら是非お願いします。

(北里委員) 芦屋市に長年住んでいますが、当時は打出分室がなくなるかもしれないという話を聞いて、歴史的な建物だし私が行っているボランティア活動も最初は打出分室で行われていましたので、大変なことだと思いました。私は基本的に本館を利用していますが、何らかの形で図書館は存続してほしいと強く思っています、有償ボランティアで運営が引き続き行われたということは、大変ありがたかったと思っています。今回、民間委託になるということですが、市民の方でも、市の職員の方なのか委託業者の方なのかわからない方もいらっしゃると思います。やはり、利用する者としてはより良いサービスが受けられて自分の望ましい本が蔵書としてあるというのが、市民としては一番だと思います。本館もここ数年大きく変わってこられていると思います。具体的には、外の掲示板の展示をテーマごとに変えて下さったり、館内も新刊のコーナーとか大人の方用にテーマごとの本を集めて展示して下さったり、児童書の方では常々本を見えるようにして置いて下さったり、また、新たに返却ポストが設置されたりして、市民としてはサービスが少しずつ向上して利用しやすくなっていると思います。利用しているものとしては、民間委託される打出分室にも、来やすいな、ここに行くところなこともしてもらえるかなという風に受け取られるような図書館になるよう、サービスをしていただけたらなと、そういうことをしていただける業者をお願いできたらなと思います。

(丸尾館長) 今回民間委託にするにあたって、分室と言っても利用者の方と本を結びつけるということでは同じだと思いますので、本館でも行っていることを分室でも対応していただいて、掲示物とか図書展示であるとか、本の管理を本棚の鮮度を保つうえでも、打出分室に来られた方がまた足を運んでいただけるような仕掛けを盛り込んで準備を進めたいと考えています。

(笹倉委員長) 先ほど有償ボランティアによる打出分室の運営について話がありましたが、打出分室の存続について市民ボランティアの方々が頑張ってくここまでされてこられたからこそ、次のステップがあったと思いますので、敬意は払いたいです。次は情報の時代ですので、市民にとってどういう図書館がいいのか、先ほど布谷委員や北里委員が言われたとおり、市民にとって触れ合いとか使いやすさとか、図書館は住民が創っていくものではないかなと私は思っています。熱い住民のおられるところにはいい図書館ができるのではないかなと思うのですが。そのあたり本館から指導ほどの程度できるものなのか、もう少しお聞きできたらと思うのですが。

(丸尾館長) 基本は図書館がどういう場所なのか、どういう施設なのかという所をふまえて、仕事をしていただくということだと思います。今後は、図書館は地域の方が集って活性化するための役割を果していかななくてはなり

ませんし、地域に根差したサービスを行っていかねばいけませんから、民間委託の業者の方が来られることになっても、同じカウンターに立つ職員として、同じ方向を向いていけるよう周知に努めていきたいと思っています。

(布谷委員) 以前、打出小槌町という地名に打出町と小槌町というのを分けな  
いで、一緒にして残す運動を一生懸命にされた方がいらっしゃいましたが、  
その時の住民の意識というのはすごく高く、だから、打出分室をボランテ  
ィアで支えようという熱意がすごかったものです。あの当時の高齢の方々  
のエネルギーが打出分室に向かっていたというのを思い出しますと、民間  
の方が来られるというのはなかなか難しい点もあると思います。運営され  
てこられたボランティアの方々は、配慮された運営は難しいのではないかと  
いう意識を持っておられます。やはり民間業者の方が来たということな  
りますと、梯子を外されたような状態になり、もう分室には行かれないの  
ではないかと私は危惧します。そういう意味では、費用の問題もありますが、  
ボランティアの方にアドバイザーという資格で携わっていただきいく  
ような形が一番いいのではないかと思います。

(丸尾館長) 12年間打出分室を存続させて図書館を支えて下さったというこ  
とに、図書館としましてもボランティア会員の皆様には大変感謝しており  
ます。今後、ボランティアの皆さんには引き続き打出分室を見守っていただ  
きたいと思っていますし、新しい協働の形というのをともに作り上げて  
いけないかと思っています。また一緒に協議していけたらと考えています。

(笹倉委員長) 他によろしいでしょうか。

(熊本委員) 打出小槌町に住んでいましたが、あの傍で図書館が建つ前から利  
用させていただきました。とても愛着がありますけれども、やっぱり開館  
日が減ってしまったということで、日によっては行きづらくなり、本館に  
来られることが多くなりました。43号線から上にお住いの方々は歳を重ね  
てこられて本館まで行くことができないという方が多くなりました。そ  
ういう意味では、打出分室の開館日数が増えることに関しては、とても喜  
ばれるのではないかと思います。最近、新しい本屋さんが図書館化し  
ているといいますか、座って好きな本を見ることができ、きれいでもあり、  
若者も好きなようです。けれども図書館ではないです。友人が探したい本  
が探せないということがあり、そんな時図書館の人に聞いたら教えてもら  
えるというのは大きなメリットです。そういう所が図書館としてもとても  
大事なところだと思いますから、民間からどんな方が来られるかわかりま  
せんけれども、図書室に訪ねて行った時に気軽に本を探せる、それに応え  
てくださる人が必ずいてほしいと。それは子供にとっても年寄りにとって

も皆さんそうかなと思います。

(笹倉委員長) ありがとうございます。

(松本淳子委員) 打出分室の開館日に、本を借りに行ったりして楽しみにしていましたが、開館日が少ないということで少し不便と思っていました。先ほどから、大原分室へは業務委託になる前しか行ったことがありませんので、打出分室が実際にどんな形で業務委託になるのかなと思いながら聞いていたのですが、一つは開館日が増えるということ、もう一つは、調査情報サービスがよくなるという、二つの利点を上げられて業務委託にする理由と伺いましたが、具体的にどのようなことが市民サービスとしてのプラス面としてあって、マイナス面としてはこういう点がありますということをお教えいただければありがたいと思います。

(丸尾館長) 民間委託で危惧されることは、先ほど枝元委員がおっしゃっておられたように、民間委託だと委託業務を継続できるかどうかかわからないというデメリットがございます。ただ、本市の図書館は本館の一部と大原分室を業務委託しており、大原分室は委託して10年になりますが、業務については対応できていると思っています。あと、従事者も固定した人が入っていただける状況が続いておりますので、今の分室運営、本館運営については、同じような均一したサービスは提供できていると思っております。ただ、他市の事例で、やはり人が変わってしまったことによって運営面に支障があるということは報告としては聞いておりますので、そういう部分でデメリットがあると思います。

(笹倉委員長) 私も図書館の司書から聞くのですが、業務委託いわゆる民間主導になると派遣とかで3~4年で人が変わっていく状況がかなりあります。その蔵書構成なりレファレンスができるという時に人が変わってしまい、戦力としてはダウンという状況もあります。だから、本当に市民との触れ合いや引き続き住民サービスということで見ていくと、やはり住民が図書館に行った時に、この人だったら何でも聞ける、あの人に言ったら安心感だという信頼がまず底辺にないといけないと思います。そのあたりも抱えている問題の一つではないかと思いますが、いかがですか。

(丸尾館長) 民間委託という手法を選んだら、そのデメリットも織り込み済で進めていかないといけない部分がありますから、不安要素をどう解決していくかというのは、安定した業務運営している図書館のノウハウを情報としてとり入れながら、本市も10年間の民間委託経験もありますので、それも踏まえたうえで運営を行っていきたいと思います。先ほども説明させていただいたように、本館がコントロールセンターとして、利用者の方のご意見等は反映いけるように、本館の体制をこれまで以上に強化して対応

していかなければいけないと考えています。

(笹倉委員長) 本館のイニシアチブは大切だと思います。

(布谷委員) 民間委託に決して反対している訳ではありませんが、やはり大原分室も民間委託をされた時も開館時間を延ばしていただいたと思いますが、何とかソフト面で委託ということを活かしてやっていただきたいと思う次第です。

(丸尾館長) そうですね。先ほどの開館日や開館時間の拡充というのも一つの要素としてはあると思いますので、そのあたりを上手に運営できるようにしていきたいと思います。

(中村部長) 打出分室は、打出教育文化センターの中にありますので、打出教育文化センターの開館日や開館時間とか、セキュリティーの問題等がありますが、委託することによって徐々にサービスの拡充が図っていかれたらと思っております。打出分室は地域に育てられたと言う雰囲気があります。分室が存続できないといったときに支えて下さり、守って下さったのは非常にありがたいことでした。図書館が芦屋市としてどんなことがやっていけるのかというのは今からですが、大原分室があり、守っていただいた打出分室があり本館があり、この3つが今から変わっていくために、やっと足固めができるところまで守っていただいたと感謝しております。あとは打出分室ならではの良さをどんなふうにも守っていけるのか、厚かましい話ですが、地域の方々に本当にいろんな意味でこれからも支えていただければと思っております。私もいろいろな図書館に行きますが、図書館ごとに雰囲気が全然違います。そこならではのこそという図書館があって、それぞれの館が大切にしているものがあると思いますので、打出分室を築いてくださった、繋いでくださった礎をどんな風に守っていくかというのが、今後の課題と思っております。

(笹倉委員長) 打出分室の開館日が少ないと言われていましたけれども、これはすぐにとということではなく、逆転の発想というか打出の図書館にしかないようなものを考えてもいいのではないかと。私も信州の図書館に行った時、図書館を半分に分けて閉館時間が来るとシャッターが閉まり、もう半分は自由に使える自動貸出機で借りるというような発想ですね。何か知恵を出せばいろいろなことができる発想で。だから住民のニーズを吸い取ってできるような形も考えられたら、すごく愛される図書館になるのではないかと思います。その他、関連して何かありましたらお願いします。

(布谷委員) 打出分室は通りから奥まっております、ディスプレイ性が非常に見にくいという、非常にアピール度がありません。打出分室としてアピールが難しい地理的条件であると思います。阪神打出駅も最近乗降客が増えまし



たが、打出分室へ向かう方は少ないようです。そういう意味でもアピール性が薄いんです。なかなか阪神打出駅の前で何かをするというのは難しい感じがします。スペースは駅を大きくされたでありますが、何か難しいと思います。

(丸尾館長) 図書館に来てもらえるためのアプローチとして、面白い仕掛けが出来たらと思います。

(布谷委員) 防犯上の理由で無理かもしれませんが、打出教育文化センターの駐車場フェンスに簡易的な箱でもできたらいいかなと思います。一番アピール度が高いと場所だと思います。ご存知ない方は幼稚園の一部だと思っておられますが、開いているところがないので。

(丸尾館長) 図書館に誘導するようなことが出来たらいいと思いますが。

(熊本委員) 今回、広報紙に「芦屋の文化財」欄に図書館の記事が出ましたよね。神戸の方がそれを見られて、こんな素晴らしいものが図書館で使っているのはすごい、見に来たいわねという方がいらっしゃいましたが、それほど知られていないようなので、もっとアピールすればいいと思いますが。

(丸尾館長) そうですね。村上春樹氏が利用していたということで有名になったということもあります。打出分室は、市の公共施設の中では知名度の高い施設の一つだと思いますので、地域活性化に活用できると思いますし、図書館のPRにも活用ができると思っています。

(笹倉委員長) 市民に対してキャッチフレーズとか、何か引き寄せるようなものができないものですかね。図書館では中身を充実していかなければいけないのですが、図書館に足を運んでもらう、図書館の良さを知ってもらうための誘致や広報紙でPRしていくとか戦略を練っていく必要があります。これだけ素晴らしい施設を持った住民の方に多く利用していただいたらと考えます。きついことを言いますが、これからは攻めていく図書館でないで資料費は減らされ、最初に切られるのは図書館です。だから、戦略型、課題解決というか何か攻めていく。例えば、図書館の登録者を芦屋市の人口レベルで日本一の登録にするとか、そういう風にしていくと住民がすごく財産にもなり、芦屋市にはこんな図書館があるんだという風にならないかと思うのですが。

それでは、次第の「その他」についてよろしいですか。

(丸尾館長) 28年度事業としての報告ですが、平成26年度に返却ポストを市役所の駐輪場に設置させていただきまして、28年度は新たに別な場所に返却ポストを増設したいと考えています。設置場所としましては、JR芦屋駅周辺に設置を考えております。

(中村部長) 現在、市役所の方に設置している返却ポストの外観が不評で、次

に設置するものは、もう少し芦屋らしい趣のあるものをおもっております。  
(丸尾館長) 協議会の中でも、市役所の返却ポストはメタリックで冷たい感じがするというご意見をいただいたこともありましたので、今度設置する返却ポストについては親しみやすい街に溶け込めるようなものが設置できないかと考えております。

(笹倉委員長) はい。その他で何かご意見はございますでしょうか。

(布谷委員) 利用者として大原分室を利用しますが、研修中の方なのかかわかりませんが、応対に難しい方がいらっしゃいました。

(丸尾館長) 大変申し訳ありません。苦情などのご意見は、その場で伺う場合や、アンケートで上がってくる場合がありますが、それについては、分室責任者に確認・指導依頼等を行っているところです。

(布谷委員) そういう方が打出分室に配属されるとなると非常に危惧を覚えます。

(丸尾館長) そのようなことにならないように、直営であろうと民間委託であろうと利用者の方に確実に希望している情報や図書を手渡すのが図書館の役目ですし、まずは、気持ちよく利用していただくことが大切だと思っています。

(笹倉委員長) 私も図書館へ行って感じますが、上司が、接遇がよくないと指摘するのは簡単ですが、少し時間がかかるかも知れませんが、図書館とはどういうところなのかという所からその人に説明をして、住民はどういう意識で図書館に来られているのか、いろいろな人がいらっしゃると思います。そういう目で図書館で働くというのはどういうことなのかということで時間をかけて丁寧に接遇に移っていく必要があります。やはり図書館のカウンターにいる人は市民との直接の顔ですから、第一印象が大事です。あと、ちょっと聞けないなという時のサービスや対応を、接遇だけじゃなくて図書館員としてどう考えるかと思えます。

(中村部長) 反対にお聞きしてもいいでしょうか。先ほど学校図書館に素晴らしいところがあるとおっしゃっていましたが、学校図書館でなく公立図書館でお勧めの所や、素晴らしいと思われる図書館がありましたらお教えいただけませんか。

(笹倉委員長) 東北や北陸は、スペースも広いし、何か尋ねたらものすごく丁寧に答えてもらえます。人を大事にする、そういうものが地域に根ざしています。

(中村部長) 北陸とおっしゃるのは、全体どこでもそんな感じということでしょうか。

(笹倉委員長) すべて行っているわけではないのですが、鯖江にはよく行きま

す。図書館が広く、ボランティアを育てるのも上手です。雪と関係があるかわかりませんが、北欧では、みんな雪の多い冬に家族で本を借りに来るんです。フィンランドでは何年か前のデータですが図書館の人口当たりの設置率が世界一です。そういうところは図書館が生活の中に根差しています。司書の人に対する敬意というか、図書館そのものを地域の住民がどう思っているかというのは伝わってきます。枝元先生どうでしょうか。

(枝元委員) 暖かい地域の図書館について紹介させていただきます。沖縄県や石垣島とか、沖縄県の占領期が長かった言うこともありまして、アメリカの経験主義の影響が色濃く出ていると思いますが、非常に図書館が活発で地域に根差したというか図書館を隠れ家や遊び場のようにする子供たちが目につく感じです。これは学校でも同じことが言えまして、図書館を使わないとできない授業とかが中心に行われます。本州は学校図書館と教室での勉強は分離していますけれども、それが一体となっていたという授業が、今でも普通に行われているというのが印象的です。もう一つあげますと、民間委託に引きずられるのですが、例えば、東京の新宿区の学校が民間委託で図書館を運営しています。賛否両論ありますが、比較的成功していると思われま。他との違いでは、運営形態でいうと横のつながりが強いことです。新宿区の中で学校のリーダーを集めて研修会をする。そうすると、何が起こるかという学校の中が閉鎖されない、密室にならないということです。その中で意見交換や困ったことやこんなことがうれしかった、あるいは授業の中で工夫してうまくいったという共有ができることで、そこに派遣されている人たちは他の所から格上と映っている。そんな感じの例だと思います。芦屋市さんが参考にできるもので学校でとなると、今だったら新宿区になるのかなという感じです。

(笹倉委員長) 将来的にはリードする学校司書は、図書館と連携したり資料を有効活用、共同活用したり、学校司書が図書館で研修会を開いて交流を密に、千葉とか浦和とかがされていますし、出雲でも毎日二つも三つも図書館で授業しています。その学校司書の方は、自分の取り寄せた資料がどういう風に使われているか、先生がどう使っているか、足りない資料はなんなのか、図書館でどういう資料を自分があらかじめ用意しておかなければいけないかずっと考えられていました。もちろん司書教諭もおられますが、図書館の授業のサポートに学校司書が入られています。そういう図書館が情報センター的な学校図書館支援センター的な役割を担って資料の補充を授業でしていくと、学校は授業がしやすい。例えば、大阪の箕面とか池田あたりでは、図書館と学校の連携が出来ており、授業は一週間前に資料がみんな揃うし、図書館でも授業ができるというようなことをやっています。

(中村部長) ありがとうございました。

(笹倉委員長) それでは、これをもって図書館協議会を閉会させていただきます。どうもお疲れ様でした。

以 上